

令和2年度第2回新温泉町総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和3年1月21日（木）午後2時30分～4時23分
- 2 場 所 新温泉町役場 会議室
- 3 出席者
(構成員) 西村町長、宮口教育長職務代理者、中村教育委員
山本教育委員、阪本教育委員、西村教育長
(事務局) 松岡こども教育課長、谷渕生涯教育課長、樹岡こども教育課参事
吉田こども教育課課長補佐兼教育総務係長
- 4 会議録署名人
西村町長、西村教育長
- 5 協議・調整事項
 - (1) 児童生徒等の問題行動について
 - (2) 令和3年度の予算編成に向けて
 - (3) その他

***** 開会 午後2時30分 *****

○吉田こども教育課課長補佐 それでは、定刻になりましたので、令和2年度第2回新温泉町総合教育会議を開催をさせていただきたいと思っております。

委員の皆様には、お忙しい中、御参集いただきましてありがとうございます。

この会議ですが、教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき開催するものでございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、主催者であります西村町長より御挨拶を申し上げます。

○西村町長 皆さん、こんにちは。大変お忙しいところ、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。平素より教育行政に御協力をいただいております、感謝を申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルスに振り回された1年でありました。今年度、もう少し残っておるわけですが、入学式直後、今年度1回目の緊急事態宣言が出され、学校の臨時休業など、いろんな面で大きく中身が変わってしまいました。引き続き、また、先日13日から兵庫県も2回目の非常事態宣言が発出というふうな中で、いろん

な面で学校現場、教育現場が大変混乱をしているような、そういう状況もあると思います。本日は、議題といたしまして、児童生徒等の問題行動についてと、2点目として、令和3年度の予算編成について委員の皆様から御意見をいただきたいと思っております。

実は、先ほど兵庫県知事主催の市町のトップの懇話会がオンラインで開催されました。実はその中の資料の一つとして県立高等学校教育改革第3次実施計画の策定ということで、今年の3月にひょうご未来の高校教育あり方検討委員会からの報告書が提出されます。それに伴って、パブリックコメントが県下全体で行われるというふうな報告がありました。その内容の中の一つで、3年度中に県立高校に関する、各市町トップを含めた各市町との意見交換会を県が開催するというふうなことで市町懇談会の県知事の報告の中でありました。今後、県立高校の在り方が、大きく流れが変わってきそうな状況が今、見えているというふうな状況であります。浜高においても、どういった報告がなされるか、ちょっと今のところ不明であります。何とか地域の高校として存続をきちりと確保して、地域の子どもたちの教育の柱として浜高の在り方についても、今後ますます県立の高校、地域の高校として残るように支援をしていきたいと思っております。

以上、御挨拶、御報告とさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。
○吉田こども教育課課長補佐 ありがとうございます。

この後の進行につきましては、主催者であります町長のほうにお願いしたいと思います。よろしく願いします。

○西村町長 では、引き続き、進行をさせていただきます。

早速であります。レジュメに従いまして、協議事項の(1)児童生徒等の問題行動についてということで、担当よりお願いを申します。

○樹岡こども教育課参事 失礼いたします。資料は1ページ、2ページになります。まず、当日配付させていただいております資料の1ページ、2ページになります。よろしく願いいたします。

まずは、刑法犯行為、ぐ犯行為について説明を申し上げます。ここでいう刑法犯行為とは、対教師暴力、生徒間暴力、器物損壊、恐喝、窃盗、万引きなどをいいます。ぐ犯行為とは、深夜徘徊、家出、無断外泊、金品持ち出し、不健全性行為、飲酒、喫煙、薬物乱用、けんか、指導不服従などをいいます。

新温泉町の刑法犯行為についてですが、発生件数もほとんどなく、増加傾向は見られません。ちなみに、兵庫県教育委員会のホームページから確認できる問題行動、不登校等の状況についてのデータでは、近年、小学校の暴力行為の増加が見られますが、本町においてはその傾向は見られません。しかし、県においては、未然防止のために発達段階におけるコミュニケーション能力の向上、よりよい人間関係の構築等の視点から生徒指導体制を充実していくとしていますので、本町においても、小学校はもちろんのこと、認定こども園を含め、早期からのきめ細やかな指導を充実させていきます。

ぐ犯行為についてですが、こちらも発生件数はほとんどなく、増加傾向も見られません。本町では、教科指導をはじめ、あらゆる場面を通して、児童生徒が自他の個性を尊重し、よりよい人間関係を主体的に形成していくよう学級、学校づくりを進めるための研修を実施しております。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携も充実させています。そのため、全国的に学校が荒れた時代に見られた深夜徘徊や喫煙などの横行、このような様子が見られることはありません。

次に、いじめの認知についてです。いじめ防止対策推進法によるいじめの定義は当該児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等の当該児童生徒と一定の人間関係にある他の児童が行う心理的、または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）とあり、当該行為の対象となった児童生徒が精神の鬱屈を感じるものをいうとあります。この定義に基づき、積極的な認知を行ってまいりました。積極的認知をする理由は、児童生徒の命を守るため、まずは早期発見、早期対応が重要であるという考えからです。

本町の実態を見ますと、昨年度までは、全国の傾向と同じく認知件数は増えてきました。しかし、今年度は、このままでいくと昨年度より減るかもしれません。これが、コロナ禍において活動が制限されたり、人との接触が制限されたりしていることが影響しているかどうかは、全国の動向なども踏まえ、注視、分析していきたいと思えます。

今、御覧いただいている2ページがいじめの詳細になります。いじめの態様ですが、一番多いのは冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われるです。2番目が、大きく数は減るのですが、金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりするです。ここには、持ち物を隠されたりするものも含まれます。ちなみに、

県の報告では、一番目の理由は同じですが、2番目の理由は軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりするが多くなっています。この県の結果は、令和元年度の調査ですので、接触を伴う軽くぶたれたり、たたかれたり、蹴られたりする行為がどのように変化していくかは注視していく必要があると考えております。

いじめ関係の最後は、いじめの発見のきっかけについてです。本町で一番多いものは本人からの申告です。2番目に多いのが保護者からの申告です。ちなみに全国、兵庫県ともに一番多いのがアンケート調査や教育相談などの学校の取組により発見するものとなっております。恐らく小規模校が多い本町においては、一人一人をきめ細かに対応できることや、児童生徒と教員、また保護者と教員との関係が密なことが影響していると考えられます。

続きまして、1ページにもう1回戻っていただきまして、不登校、長期欠席についてです。不登校と長期欠席の定義を確認させていただきます。不登校とは、年度内に30日以上欠席した児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因、背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあること、ただし病気や経済的な理由によるものを除くとされています。長期欠席は、不登校で除かれる病気や経済的な理由などで登校しない人数となります。

不登校は多くの要因が関係していると言われております。本人の無気力や不安だけでなく、生活リズムの乱れや家庭生活環境の急激な変化、友人関係、教員との関係、学業不振、進路に関する不安、健康や入学時の不適應、学校の決まりをめぐる問題、部活動への不適應などです。全国においても、兵庫県においても不登校は増加傾向にあります。今年度においても増加傾向にあるようですが、本町においては、本年度減少する方向にあります。一番大きな要因は、新温泉町適応指導教室「ほっと児遊」の運用が始まったことによります。この事業では、児童生徒一人一人の状況に合わせた指導により、自立心や社会性を育て、学校、家庭との連携を密にしながら学校復帰を図っております。先ほどの不登校だけでなく、長期欠席を含め、スクールソーシャルワーカーとも連携しながら事業を展開しております。担当の指導主事がきめ細かに活動することにより、学校や保護者からの相談も増えています。事が深刻になる前に対応できたり、以前から不登校が継続している児童生徒への働きかけがより丁寧にできるなど、確実に成果が現れております。1ページの下半分は、子ども相談室の相談件数ですが、小・中学校における不登校に関する相談が増えていることからきめ細かに

対応していることが分かります。

最後、まとめといたしまして、不登校対応、不登校対策では確実に成果が現れている本町ですが、本資料にありますように、いじめの認知件数や相談件数が減っています。今年度はコロナ禍での対応が求められましたけども、コロナ禍における心のケアとともに、その影響が児童生徒の行動や生活にどのように影響しているのか、またSNSなどの問題がどのように広がっていくのかなどを見極めながら、迅速かつ丁寧に取り組んでまいります。

私からは以上です。

○西村町長 どうもありがとうございました。

全体的にいじめというか、少しずつ減ってきているというふうな流れが見えると思います。傾向としては、非常に先ほど適応指導教室の成果というふうなお話もあつたんですけど、本当に流れがよくなってきているようなことで、教育委員会の活動の成果が出ているように思います。

あと委員の皆さんから今の報告について御意見をいただきたいと思いますので。

中村委員さん、いいですか。

○中村委員 適応教室が始まって、一人一人丁寧に寄り添っていただいて、気持ちを汲み取るという方向性の中でいい方向になってきているなというふうに思います。

そういう中で、各学校園によって、先生によってという言い方はちょっと語弊があるかも分かりませんが、どうしても自分の思いを出せるか出せないかというのが変わってくると思うので、やっぱり各学校園というのは、学校、教室で起こるといはいじめがほとんどだったと思います。いじめに関していえば、SNSというふうなことも一方で現れているわけですが、やっぱり各学校ともにいじめに対して徹底的に守っていくんだっていう姿勢が、学校によって何かカラーが違うように思うんですね。だから、そこら辺の徹底を町として何ができるのかな、どういうふうなことが求められるのかなというふうに考えたりするんですけども。

実は、昨日、浜中に学校訪問させていただいて、そのときの校長先生の説明の中に、生徒のいるところには常に教師の姿があるという教師像を持っているんですと言われました。風通しのいい情報の共有であったり、チーム学校というよりホーム学校ということの中で、皆が同じ方向を持ちながら、大事なものに力を入れながらやっているんだということだと思えるんですね。私、具体的なことをお伺いするのはちょっと忘れ

たなど帰ってから思ったんですけど、それっていうのは、でも、私の思いからすると、積極的に生徒との距離を縮めたり、積極的に生徒の思いを聞きたい、知りたいということが先生のいろんなことの発信によって伺えるか否かではないかなというふうに思うんですね。浜中さんのことを見ると、不登校の方も減ったというふうなお話があったかなというふうに思うんですが、そういう結果がもちろん出てるということも含めて、この先生なら話してみようかなとか、この問いかけをしてくれるこの先生は話しやすいのかなとか、いろんなことが日々の学校生活で見えてくるということがやっぱり大きいのではないかなと思うんです。そういう学校の在り方っていうのが、どういうふうによりいいものは広まっていけるのか、普及できるのかっていうことを考えていくときに、どんな方法があるのかなということも思いつつ、大きな課題であるんだなと思います。

ある学校で伺ったときに、ある校長先生は、不登校であるけども、全くその子にも家庭にも問題がないんだっていうふうに返答された校長先生がおられたんですね。それってどうなのかなっていうふうなことを思いながら尋ねたときに、もっともっと入り込んで、お互いに気持ちを話し合えるということが日頃からできていたら、言いたいこともいっぱいあるのではないのかなというふうに思いますし、だから、学校、特に先生の在り方、もちろんチームとしての生徒に関わる在り方っていうもの、一つ指針というしっかりしたものがどうなのかな、例えば、具体例も含めてモデル校のような中で、こうして少なくした、こうして寄り添えたっていうところが広まればいいのかなと思うんです。昨日の学校訪問で考えさせてもらいました。

今、不登校は減っているけどというふうにおっしゃられた先には、確かに適応教室に通ってらっしゃると思うのですが、その適応教室についていうことに、まだまだその情報さえ手繰り寄せられてない子どもさんやお母さんがいるのではないかなというふうに思うんですね。長年の歴史の中で、不登校なりひきこもりなりということが社会の中で一緒に考えていくということが少なかった。当町は特に今年からだというふうに思うんですが、そういうものにうまく慣れていく、そういうものの情報をうまく手繰り寄せていく、そして、一緒になって考えていって、あそこに行けば、あの人、あの先生に行けば、いろんな話ができるんだっていうふうな情報も実態も含めて、もっと社会化、情報化していけるようになればいいなというふうに思うんです。

○西村町長 ありがとうございます。

学校ごとにカラーというか、そのカラーを出すのは一番の責任者である校長先生が先頭に立って、学校の色を出していかないけんとは思いますが、その出し方は、ある程度基本的なところがあればという感じはするんですけど、教育長、どうですか、今の中村委員さんのお話について。

○西村教育長 中村委員さんがいつもおっしゃっていただくのにも、ここに行けば話を聞いてもらえる、この人なら話ができるっていうことをいつも言っていたいておりまして、本当にそれは大事なことだと思っています。子どもの不登校、日数には上がってこないけど不登校ぎみの子とか、心配だなという子どもたちもいる、そこでの声かけがどうできるか、どうつかんであげられるかということとはとっても大事だと思っています。校園長会でもそういった話をさせていただいているんですけど、子どもの見える部分じゃなくて、やっぱり見えないところに背景があって、じゃあ、そこに目をやれる人が何人いるか、声かけができる人が何人いるかっていうようなことだと思うので、やっぱりトップである校長がそういった姿勢を打ち出していくっていうことはとっても大事なことだというふうに思っています。いろんな方の協力も得ながら、浜坂中学校で減ってきた経緯には、スクールソーシャルワーカーの関わりがあったり、町の保健師の関わりがあったり、いろんなところでの関わり、学校との関わり、そういったことが総合的にうまいことっていた事例もあつたりもするので、今後、やっぱり不登校を減らすということは、新しい不登校を生まないというような目標をしっかりと掲げて、校園長にも伝えていきたいなと思っています。

○西村町長 不登校やいじめが減った原因、さっき樹岡参事のほうからいろいろ分析をしていただいたんですけど、それ以外にもやっぱり何かあるんでしょうかね、きめ細かいいろんな制度が、教育長の提案でどんどん進んではおるんですけども。

○西村教育長 そうですね、昔とは子どもの質も変わってきていますし、社会情勢というか、本当に見えなくなってきたっていったら分かりやすいかと思うんですね。その見えない世界でSNSを通じたりとか、LINEでのやり取りだとか、やっぱりそういう部分で難しくなっている、見えにくくなっているというところはあると思うんですけども、表だって、表面化するのではなくって、なので、LINEを通じてのトラブルとか、そういったことはやっぱり全国的でも数が多いですし、本町においてもそういった問題はやっぱりありますので、そういった違う形の問題傾向が出てくると思います。

今回、コロナ禍においてどうなっていくのかなというところは、現時点では結果が出ないわけですがけれども、来年度、分析もしながら、何かやっぱり影響があるんじゃないかなと思っていますし、何年後かに、この情勢で家庭の落ち着き具合の問題だとか、そういったことのどこかに影響が出るんじゃないのかなって私はちょっと心配をしています。

○西村町長 まあ、昔だったら、暴力事件があれば、けがをしたりして、すぐ分かるんですけど、SNSとなると、見えないということもあるし。

阪本委員さん、初めて総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。現状、なかなかまだ把握できていない面もあると思うんですけど、今日何でもいいので、ちょっと気がついたことがあったら、お願いします。

○阪本委員 今ですか。

○西村町長 はい。

○阪本委員 そうですね、不登校とかっていうのは本当にいろんな原因がある、本当それぞれ原因が違っているんだなっていうのを感じているんですけど、今、携帯を触ったりする、中学生なんて特にそうですよね、携帯を触ったりする時間が、気づいたら、布団の中で触って、朝起きれなくなったり、そういうサイクルで何か体調不良を起こして、出て行けなくなったという話も本当によく聞く話ですし、身近なところで、朝御飯を食べれていない人っていうのが本当に多いというのが、それが学校からのアンケートで全部それが吸い上げられているかということ、そうでもないみたいで、一応食べさせているつもりっていう感じのアンケートでの返答だったりするようなことがあるんだなっていうふうに、ゼリーみたいな、何かそんなものをちょっと食べてきたとか、ヤクルト1本だとかっていうふうなことが本当に実際に多いということ、そういうところがやっぱり多いみたいで、そういう家庭環境によって体調を崩して、それがきっかけで不登校という人も多くあるんだなということを知ることがありました。

本当に何か出にくいっていう、ほかの理由で教室に入りにくいとかいうので、という人も聞いたりするんですけど、本当、保健室の先生が温かく迎えてくださるから保健室には行けるとか、そういうのも聞いたりするんですね。だから、何かどっかに受け入れてもらえるところがあるということが、何かまた頑張ってるというところに、時間をかけてでもそういうふうなことに繋がっていく、もう自分では行かなきゃいけないと思っても、行けない自分があるっていうところで、何をきっかけに、

本当行事をきっかけに行けるようになったということもあったり、いろいろなので。本当に何がきっかけかは分からないんだけど、一人一人に寄り添うということってというのは、自分のことを忘れられてないとか、例えば休んでるから、お手紙を入れてもらうという、誰かの一言が書いてある、やっぱりそれだけでもつながってるということがすごく大事なことなんだなというふうに身近なところでちょっと感じるものがたくさんありました。

○西村町長 ありがとうございます。

学校に登校するけど、別の教室で学習するというふうな生徒はたくさんいるんですか。

○西村教育長 学校で別室対応している子どもたちがおります。

○西村町長 何人ぐらい。

○西村教育長 資料が今ここにはないので、はい。

朝からということが難しい子どもは昼から登校したり、お昼前に来たりとか、本当にその子のその日の体調にもよるんですけれども。

○西村町長 本当は、適応指導教室でないほうがいいんですかね、本来、なくて、普通どおりみんなが行けるのが理想、昔はあんまりなかったですけどね。

○西村教育長 そうですね、昔にも多分そういう子はいたかもしれないですけど、すごく人数が上がってきたりして、注目されるようになってきて、いろんな子どもたち、弱さが出てきたり、結構そんなところでいろいろやっぱり対応しなければならないこと、それから発達特性というか、発達の問題があって、やっぱりそういったことで困り感を持っている子どもが増えてきたりと。本当にみんなが元気に学校に行ってくれたら一番いいんですけれども、そうもいかない現状があるので、やっぱり一人一人に対応した教育というのは求められていくと思っています。

○中村委員 学校以外に相談に行くっていうのは適応指導教室というのが次に入ってくるんですよね。

○西村教育長 相談ですか。

○中村委員 相談先っていうのは、学校で相談する以外になつたときにその教室を利用されるというか、そこを頼りにしてという方が多いんですよね。

○西村教育長 昨年度まででしたら、子ども相談室に電話がかかってくるということはめったになかったんですけど、今年は結構相談件数が、電話で直接かかってき

たり、相談室に相談に来られたりというようなことで、本当に機能してきたなということは実感として持っています。

いろいろな対応、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがいて、相談を受けたりという、そういったケースもありますし。

○中村委員 悩んだり、困ったら、どこの機関にしても、人にしても、やっぱりそこら辺が機能してきたというところはあるんですよね。

○西村教育長 そうですね、実感として私はそう思っています。いい傾向になってきたと。子どもが元気になっていくというのが、親同士のつながりの中で伝わっていくといえますか、そんなことも一つの要因としてある。それから、学校からも紹介もしているという。阪本委員がおっしゃっていただいたんですけど、保健室の、養護教諭の存在も非常に大きいと思っています。

○中村委員 どれも根底で求められてきたことだと思いますよね。そういう頼りになって、一緒になって考えてもらうところっていうことは。

○西村町長 相談を気軽にできるようなところですね。

○中村委員 声もすぐ……。

○西村町長 本当は学校の先生がしてあげたら一番ええだけだね。

○西村教育長 そうですね、先生に相談できる、そういった体制もできているんですけど、でも、学校じゃなくって外部の人だから言えるっていうこともあったり。

○西村町長 そうですね。

○西村教育長 はい、あると思うんで。

○西村町長 親に相談しにくいけどね、他人にだったら相談しやすいもんね。

○西村教育長 そうですね、はい。

○西村町長 ありますからね、そういう相談体制が充実する中で、前向きに生きていける生徒が増えれば、非常に流れとしてはいい傾向だなと思いますけど。

続いて、山本先生、どうですか。

○山本委員 今、大体話にも出ていましたけれども、やっぱりすごくいい循環ができてきているんだなということを感じます。適応指導教室も開設されて、当初は1名、2名だったものが、今現在4名になっているとか、その相談センターに相談件数がたくさんあるとか、先ほどからありましたように、学校に情報が入って、そちらに情報を入れるという場合もありますし、そちらに情報が入って、適応教室、相談センタ

一のほうから学校のほうに情報が入るといふ、本来的にはやっぱりそういう双方向の流れがあると非常に機能していくんだなということを感じるんですけど、今現在、やはりそういった状況になりつつあるのかなというように感じること、やっぱり先ほどの説明から聞いてみても思いますし、やっぱりそれぞれスクールカウンセラーであるとか、スクールソーシャルワーカーの話も出ておりますけれども、いじめにしても不登校にしても、本人がいろいろ悩み苦しんでいることや、あるいは家庭に起因するようなことだとか、いろいろなものがありますから、それぞれのお立場で、スクールソーシャルワーカーが家庭の中まで入っていろいろ相談をされるとか、学校の中でのいろいろな部活の出来事だとか悩みを、スクールカウンセラーが子どもたち、生徒から話を聞いてあげるとか、そういったそれぞれの役職の中でそれぞれが非常に機能されてきているなということを感じますし、先ほど教育長も言われたんですけど、校長は、そういった事案が出たときには、職員にどうせえ、こうせえとかっていう指示はいっぱいするんですけども、実際、そういう情報がトップに上がってくるという、その中の一つに、非常にここは重要な役割を持っておられるのがやっぱり養護の先生だなというふうに思っています。各学校の保健室というのは心の居場所づくりっていうことを必ず経営の柱にしておられますので、そういったところから、養護の先生が見られて子どもの様子がおかしいとか、この子、何かちょっと気になりますとかというのが上に、トップに上がってきて、そして、担任なり、生徒指導のほうにそこからまた下りていくという、そういった流れがありますから、やはり新温泉町の中でそういう不登校、あるいはいじめが少なくなったり、落ち着いてきたっていうのは、そういうところの流れがスムーズになっているんだろうなということを感じますし、とっても、先ほど言いましたようにいい循環ができてきつつあるのかなということを感じます。

先ほどの報告の中で一つうれしかったというのは、樹岡参事が先ほど説明された中に、いじめの、なぜそのいじめが分かったのかという説明の中に、本人からの申告だとか、小規模校が多いので、非常に人間関係が、教師と保護者との関係もいいから、保護者からのという、そういう説明もありましたけれども、やっぱり友達からその報告が上がってきたという、そこらの、本人は言えないけれども、周りの友達が、あの子、ちょっと先生、こんなことされてましたよとかという、そういう数が上がってましたよね。なかなかこれというのは数字的にはいっぱいにならないんですけども、やっぱり傍観者が少なくしていくということが、いじめのいろんな、解消に向けては

非常に大切なことだなどと思っていましたので、そういった面で友達からいじめが報告されてきた、上がってきたというのも非常にうれしい傾向だなどと思って見させていただきまし、不登校の子どもたちのいろんな悩みだとか、心理的ないろんなものを取り除いてやるための、学校職員、教育委員会をはじめ、そういった学校の先生方の立場と、それから、その親御さんの非常に苦しみとか悩みを解消してあげるために、今年度、社会福祉協議会と連携をされて、そういった不登校を持っている親御さんが集まって、いろいろと悩みを打ち明けたり、あるいはこんなことがあったから、こうしてあげたらどうみたいな、そんな会を教育委員会もちょっと関わりを持たれて、そういった会を開かれたということは非常に何か明るい展望といたしますか、先ほどから出ているように、ここに行けば聞いてもらえると、ここに行ったら、何か手を差し伸べてもらえるという、そういう体制がやっぱり非常にできつつあるのかな、いい兆候だなどということは何度も申し上げて申し訳ないんですけど、それは思いました。すみません、長くなりました。

○西村町長 友達からの報告というのは、いい友達を持たないけんという面もあるんですけど、どっちかいうと、今、流れとしては、今だけ、自分だけ、お金だけというかね、そういう世の中の流れが、役場の職員でもそうですけど、自分の仕事さえしとったら、同僚の仕事は知らんでということにならんようにせないけんと思うんですけど、そういうところがやはり教育現場でも、コロナでさらにそういう分断というか、そういう流れが加速されないように、ぜひ今の日本の悪い流れがならんように教育現場でさらに友達関係の充実というのを図ってほしいなという具合に思います。ありがとうございます。

宮口さん、いかがですか。

○宮口教育長職務代理者 3名の委員さんとは違った角度から発言させていただきます。

まず、この数字、ただゼロや少なくなってきたという、ただこれは、やっぱり数字に現れてることであって、恐らく現れない数字というのが必ずあります。これをやっぱりしっかりと把握していく、ゼロだから安心だというんじゃなしに、やっぱりゼロの裏には必ずあります、これは。だから、ここをやっぱり各学校ともしっかりと頭に入れて、ああ、今年はよかった、よかったというけども、必ず泣いてる子どもおりますし、その辺のところをしっかりと見つける、見つけるというんじゃなしに、本当に生徒指導、あるいは、生徒理解もあるし、児童理解もあるし、認定園でい

けば幼児理解もあるという、このところが私はもう一番大事だということであって、家庭環境からそれぞれ分かっている、勤務年数の若い先生というのはやっぱり見えない部分もあるし、そのところで、主幹教諭の働きというのが大きいと思うんです。主幹教諭というのは、もちろん管理職の補佐的な仕事、生徒指導的な全体的な仕事はするんだけど、やっぱり一番大事なのは先生の相談相手です。先生のいわゆる悩みとか、例えばこういう子を持っているんだと、先生、経験からこういう子にどう対応されましたかとか、そういう内輪での話をしっかりと聞いてやるのが私は主幹教諭だと思う。やっぱり本当の主幹教諭というのは、やっぱり先生たちが動きやすい、悩みを持っている、主幹教諭というのは、5年目で10年目で主幹教諭になりませんので、何年かやって初めて主幹教諭になるわけで、その経験を生かして、悩みを聞いたり、打ち明けられたり、自分の経験を通して話をして、ただ頑張れ頑張れじゃなしに、やっぱり理解もしていかなあかん、やっぱりそういうのを橋渡しする、こういうような悩みを、こういうような子どもたちも先生も持っている、それをやっぱり教頭先生、校長先生との相談の中で、この先生はこういう悩みを持って、この学級ではこういう子で悩んでいますよと、そして、適切にやっぱりアドバイスしてもらおうという格好が私は学校のいわゆる、さっき浜中でいえば、ホーム学校という、ああいう言い方になってくるんじゃないかなと。

で、本当に子どものことに関しては意外にやっぱり分かっていない、私もそうだった、今だったらちょっと当時のことを思い出すんだけど、やっぱり一人の子を見とって、家庭環境、家に入っても本当に乱雑な、部屋ももうあちこち本が散らかってる、そういうような子の中にもやっぱり不登校もおったり、あるいは逆にきちっとして、戸を開けて玄関に入ったら、靴がもうきちっと並んで、それこそ花が置いてあったり、手で触ったって、ほこりが一つもつかない、もう本当にそういう家庭の子も不登校の子はいましたけど。やっぱり本当にどういう家庭の子だって不登校になったり、あるいは悩みを持ったりというようなのが必ず出てくるので、やっぱり先生は、学校関係はやっぱり生徒理解、児童理解、幼児理解ということを実際に頭に入れて、それを基にして一人一人に対応の仕方が違ってくると思うんです。この子にはこういう対応の仕方、10人おれば10とおりの対応の仕方があると思うし、この対応でこの子は成功したから、じゃあ、この対応の仕方をこの子でやってみようといったって、なかなかうまくいかない場合だってあると思います。やっぱりいろんな、そう

いうことができるのはやっぱり生徒理解、児童理解、幼児理解が一番根本にあるかなと。

やっぱり一人一人対応の仕方っていうのは違うように思うし。だから、問題は、やっぱり本当に子どもをいかに一人一人の成長過程を見て、理解を深めていくかという、これはもう学習指導にも影響してくると思いますしね、このことが私は大事なように思います。

○西村町長 ありがとうございます。

先生の立場って非常に難しいとは思いますが。いろんな個性を見極めて、個別対応するのは非常に難しい時代になっているように思うんですけど、最近、先生の応募というのは少ないんですか、先生の成り手というか、それは先生の仕事が大変だから少ないか。

○西村教育長 ちょっと減ってきているところはあると思いますけれども。

○西村町長 先生の悩みを相談するところはあるんですか。

○西村教育長 教師が悩んだことをカウンセラーに相談したり、子どものことで相談に行ったりするんですけど、自分が子どもとの対応で困っていることとか、不登校の子どもとか、いろんな子どもたちのことでカウンセラーに相談に行ったりとか。というのは、教師間の中でも生徒理解の会を週に1回持っている学校もありますし、その中で出し合うとか、そういった体制はどこでもやっていると思いますし、ベテランがやっぱり声かけをしてあげるとするのがとっても大事だと思うんですけども。スクールソーシャルワーカーに相談したりとか、いろんな形で教師も悩みは打ち明けていると思いますし、はい。指導技術とか、そういった面にはやっぱり先輩教師に聞いていると。

○宮口教育長職務代理者 だから、経験のある先生はやっぱりそれなりに引き出しをいっぱい持っていますし、ただ、私が認定園の先生たちにも研修会で話しする中で、引き出しはたくさん持つことはいいですよと、しかし、引き出しの中身の問題、乱雑に、例えば机を開けてみたら引き出しがいっぱいあるんだけど、もう鉛筆から消しゴムからもうごちゃごちゃになっている。そうじゃなしにきちっと整理された、この引き出しを開けたら何が出てくる、そういうやっぱり引き出しをたくさん持った先生がすばらしいのは事実だけど、しかし、中身をきちっと整理整頓のできたというのは、結局その場所に応じた指導、話ができるという、やっぱり開けたって、鉛筆を探そう

と思ったって、何か本やティッシュがやたらいっぱい入って、どこにあるんだというようなことでなしに、そういうことがやっぱり引き出しの中をきちっと整理整頓できとれば、適材適所に今度話ができるという、経験を通した話ができるっていう、そういうやっぱり私は学校というのは大事だなと。やっぱり整理整頓し、適材適所に子どもに応じてどの引き出しを使うことが一番いいのかという、このことをやっぱり頭に入れておかなければ、私は駄目かなというふうに思いますね。

○山本委員 昔は、よく学校の先生というのは学級王国と言われるぐらいそのクラスを担任すれば、もうこのクラスは自分だけで、隣は何をしたらいいのか分からんとか、この学級の中では教師が自分のやりたいようにみたいなことで、結構、閉鎖的な部分というのはあったと思うんですけれども、かえって、そういったことで全部自分で抱えてしまうという側面がありましたので、やっぱりしんどくなったりとか、そういったこともあるんだろうなと思うんですけれども、最近はずっとそこら辺りは、本当に何というか、多学年、多学級あるところの学校なんかは学年の中で非常に意思の疎通を図ったり、みんなで会議を持って、非常に人間関係も密になったりして、いろいろお互いに不安や悩みを打ち明けたりということもできますけれども、この新温泉町のように学級が一つしかないような学校はたくさんありますけれども、そういう学校だからこそ、かえって教員間の人間関係といいますか、そこら辺は本当にもう大切にしていけないといけないと思っていますし、この辺りは、やっぱり管理職が十分目を配られて、やっぱり先生たちの動向とか、そういったことを見ながら、お互いに意思を合い合わせるという、多分そういう取組をしておられる学校はほとんど、たくさんあるんだろうなと思っていますので、昔のように凝り固まったような学級王国というようなことは今はあまりなくなってきたのかなと思います。だから、先輩の教員に悩みを相談するとか、それから、先ほど言いましたように養護の先生に相談するとか、直接管理職に相談して悩みを聞いてもらおうとか、そういう体制というのは今十分できているんだろうなと思います。

○西村町長 また、あとその他の項、意見がありましたらお願いしたいと思います。

取りあえず、次の項目に進ませていただきます。

令和3年度の予算について、担当より説明をお願いいたします。

○西村教育長 それでは、令和3年度の予算内容について、私のほうからお話をさせていただきます。来年度に向けて教育委員会で力を入れていくこと、進めていきたい

施策等ありまして、そのことについてお話をします。

まず1つ目です、新温泉町の教育振興基本計画の策定をしなければならない年になっております。それに向けまして、次期の計画を立てるために、来年度本町の教育と成果と課題をしっかりと振り返りまして、新たな施策をしっかりと出していきたくと思っています。そのために、教育アドバイザーとして、そのアドバイザーを招聘することによって新たな本町の教育の指針を示したい、そういうふうに思います。これの基になります第3期のひょうご教育創造プランというものがもう出ておりますので、そういったものを踏まえながら、本町の子どもたちの教育をしっかりと考えていきたいと思っている、そのための予算でございます。

それから、2つ目です、先ほどから話題になっております適応指導教室の充実ということを上げております。今現在4人の子どもたちが心の居場所、学びの場として通っております。今後まだまだ不登校傾向にある子ども、不登校の子ども、そういった子どもたちにもしっかりとアプローチをする中で、心の居場所、学びの場、そしてそこからエネルギーをためて学校復帰というような狙いを持って来年度も展開したいと思っています。本当にいい形で循環しているというようなこと言っていたんですけれども、今のところいい形で進んでいると思いますので、今現在週4日間、開所当初は2日だったんですが、それを3日、そして今3学期からは4日間開所しています。それは子どもたちとしっかりと話をしながら、子どもたちの状態を把握しながら計画的に進めていますので、来年度には5日間を開設、開所したいと思っています。そのためには、現在の指導者が1名で、教育委員会内の分掌を持ちながらやっておりますので、なかなか難しい面がありますので、来年度については、指導者を2人体制でやっていきたい、そんなふうをお願いをしたいと思って、来年度の予算を組ませていただいております。そこに通うことでやっぱり、いろんな子どもたちが来ますから、そこでの人間関係づくりだとか、やっぱり行くとなれば早く起きなければならないとなったら、生活習慣も身につけていきます。そしてそこで自分で決めた勉強をしていく、それから、ほかのいろんな活動をすることで、自分に自信がつくというようなことにつながりますので、そういったことを子どもたちに、心のエネルギーを与えながら学校復帰、そして3年になったら進路選択ができるように、そんな支援をしていきたいと思っています。そして、もう一つです。そういうことをするために、いろんな悩みを持っている子どもたちもいますので、心理士の配置もお願いしたいなと思って、

今お願いをしています。毎日なんてことはとっても無理ですので、心理士の配置を月1回、相談日の設定を設けることで、悩みを持っておられる親御さんが来られて相談する場でもいいし、子どもの相談の日、専門的な角度からアドバイスをいただくというような、そういった本来ある適応指導教室の形を形づくっていききたいなと思っています。

次に、スクールアシスタント及び特別支援教育補助員の機能の向上ということです。本町では、相当の人数を配置していただきまして、困っている子どもたちに支援の手が差し伸べられております。けれども、機能的に関わっていただいている方々に研修の場というのがなかなか持てなかったというところがあって、問題もあつたりしております。ですので、どのように子どもたちに関わっていったらいいのかというところの研修を来年度さらに深めていきたい、来年度に向けて、さらに充実に向けて研修の継続をしたいと思っています。そのためにも、来年度研究推進校という名前がいいのかあれなんですけれども、2校ほど、どう関わっていったら、子どもが変化していったかというようなことも検証して取り組んでいきたいという、充実、人数だけ希望するから欲しいとかそういうことではなくって、どう子どもが変わっていくのかというようなこともちょっと来年度の予算でやってみたいなということを思っています。

そして、次はGIGAスクール構想の研究と実践ということで上げさせていただこうと思っているんですが、今年度からいろいろ準備をしてきております。1人1台の端末がもう入ろうとしているんですけども、それを活用した授業、先生たちが授業改善をしていくということが非常に大きなポイントになっていきますので、先生が使いこなさなければならないですし、どう使っていけば授業改善につながっていくのかということの研究、研修をしたいと思います。そこに講師の招聘をしていって、計画的に進めていきたいと思っています。現在も地道に講師、先生とのやり取りをして、研修を深めているんですけども、来年度はモデル校をつくりまして、そこに、2校の指定をしております。今現在もうできておりますので、その2校を中心に研修を深めていくということで、やっぱり多様な子どもたちを誰一人取り残さない、そういった教育を目指していきたいと思っています、そのための講師の予算になります。

続いて、新型コロナウイルス感染症対策の経費ということで計上させていただいております。まだまだ先が見えない現状がありますので、消耗品や消毒薬などの購入経費だとかそういったことに計上をさせていただいております。その中にありまして、

スクールサポートスタッフということで、教育委員会の中でも今年度配置したというお話をさせていただいたんですけども、非常にやはり消毒作業が、教職員にとっては負担になっておりまして、このスクールサポートスタッフを配置していただいたことで、大変助かっていると。そのおかげで、教材研究に向き合う時間だとか、子どもとの時間が取れたというような、本当にありがたいということも聞いておりますので、継続しての配置もお願いをしているところです。

それとあわせて、スクールソーシャルワーカーの日数を増やしていただきました。週4日間の勤務をしていただけるように、今年度6月から予算措置をしていただきました。そのことで全戸くまなく回れるようになったということで、非常に相談件数もあったり、家庭への支援もしやすくなってまいりまして、結構相談件数も増えて、いい形で保護者へのアドバイスをしたりとか、子どもたちへの声かけだとか福祉との連携、福祉の専門ですので、そういったいろんな、学校教育とは別の分野でアドバイスをいただいているということで、引き続き4日間の配置をお願いしたいなというふうにお願いをしております。

そして、次は、コミュニティ・スクールの推進ということです。委員会の中でお話をさせていただいておりますが、いよいよ来年度から2校をモデル校に決定しまして、そこを中心にコミュニティ・スクールのスタートさせていきたいと思っております。3年かけて全校にコミュニティ・スクールの導入を考えておりますので、来年度2校に対する予算をお願いしております。

そして、ここからは生涯教育課の予算になります、1つ目は、文化財保存活用地域計画策定ということで、日本遺産の活用の計画を策定するというものです。これも3年計画で、来年度から日本遺産構成文化財とか、周辺地域の文化財含めて総合的な保存活用を図っていくというものです。来年度は実態把握とか、それから現地調査、アンケート等を行う予定にしております。これらの計画を計画的に予算に組み込んで取り組みたいと思っております。

そして、もう一つは、夢ホールのリニューアルオープン記念事業についてです。いよいよ来年4月10日に記念式典、公演として演劇等の公演等を計画しておりまして、そういったものについての予算、それから、いろんな催しを計画的にやっていきたいというふうに思っています。そういったものの予算です。

それから、男女共同参画社会プランの策定です。来年度で5年目を迎えますので、

改定を図るため、そのための委員報酬というようなことで予算を上げさせていただいています。

以上が令和3年度の予算要求の内容についてです。いろいろ町長にはお願いをしておるところでございますが、よろしくお願ひいたします。

○西村町長 教育長のほうから来年度の予算、まだ確定はしてないんですけど、要望段階であります。こういう予定、予算要求がありますけど、皆さんのほうからもっと詳しい内容とか、それぞれについて、御意見がありましたらお願ひをいたします。

今日は生涯教育課長も来ておりますので、関係する成人式のことであるとか、そういったことも含めて御意見があったら。3年度は2回成人式はありますので、教育委員会、大変だと思いますけど。

はい、よろしくお願ひします。

○谷渚生涯教育課長 1月10日の成人式を5月2日に、コロナの感染が拡大しているということで、急遽12月中旬の決定でしたが、延期とさせていただきました。その代わりに、本年度成人式を迎えた対象の方に、もう既に準備してました恩師の先生方のメッセージの縮小版を作りまして、2分程度のビデオなんですけども、新成人の方に、限定でそれを見ていただくようにユーチューブ配信をしております。同時に、実行委員会から新成人の方へのメッセージ、1分程度でございますが、それも併せて期間限定でユーチューブ配信をしております。ということで、令和3年度は5月2日、それから、1月と2回成人式を実施する予定でございます。

○西村町長 夢ホールのオープンのこと、ちょっと報告。

○谷渚生涯教育課長 夢ホールのほうは順調に工事が進んでおりまして、今内装の最終のほうに取りかかっております。来年度の事業としまして、4月10日に式典を行います。その式典の後で平田オリザ氏の講演会、そしてその後に青年団による「銀河鉄道の夜」の演劇をしていただく予定にしております。いずれも町民の方に無料で、多くの方に来ていただきたいと考えておりますが、コロナの感染状況によってはちょっと規模を縮小ということも検討しないといけないかなとは考えております。スタートとしては4月10日なんですけども、それ以降いろんな行事の計画を、1年間を通して記念の年ということで、一度皆さん遠ざかっていた夢ホールにまた足を運んでいただく、多くの方に、子どもさんから大人、高齢の方まで多くの方に来ていただくようなイベントを計画しております。その予算につきまして、今要望をしているところで

あります。

○西村町長 以上のような状況です。

予算について御意見、御質問がありましたらお願いいたします。ありませんか。

適応指導教室、充実するのはいいんですけど、学校に行かずにこっちにばかり行かれんように、そこはよろしく……。

○西村教育長 はい、心がけてます。

○中村委員 一方、学校に行けてる人も、悩みを持っている人は多いと思うので、不登校になっている方が、適応指導教室ができたことによって一緒になってというようなことの中に居場所がやっぱりしっかりできて、新温泉町は、適応指導教室ができたのは、最後というか遅いんですよ、早くはないですよ、早くはない2年目に今のよう予算を考えていただいているということの中で、一気に頑張ってもらっている方向に行くんだなというようなこともいろいろ聞かせてもらったんですけども、やっぱりこの町の特徴として、私が以前関わったときに思うんですが、なかなか言い出す、初めの人勇気というのがすごく要ると思うんです。うちの子、不登校になってる、どうしようってことを言い出す保護者の方も、本人さんももちろんだけど、すごい勇気の要る中で、その勇気を、今年度の適応指導教室の開設によって、やっぱり行っていいんだ、同じような人がいるんだ、行ってよかったっていうそのつながりがすごくいいほうに、今向かっているとすれば、やっぱりそれをもっともっと、それも大事なことなんだ、みんなで考えようってところを広めていくための適応指導教室だと思う。もう一つ、私ずっと以前にもお願いして、なかなか難しいなと思ったんですが、やっぱり小・中不登校で、そのまま家庭にひきこもっている方が数少なくてもおられますので、そういう方に対する手だてというのが、積極的にやっている窓口というのは、はっきり言ってないのかな、十分じゃないのかということも含めてあると思うんですが、やっぱりPRも含めて、どうしてもおざなりになってる現実があるんだと思うので、そういう方々で、もっと大きい、40代、50代、60代のひきこもりの方もはっきりとした対策がない中で今きていると思うんですが、そういう方の声をどんどん、言い合おうよ、助け合おうよという社会化という意味にやっぺいかなければいけない課題というのもあると思うし、適応指導教室が大事なものになって、いろんなものに波及してもらえればありがたいなと思いますので、ぜひ適応教室の予算の充実を本当に。

○西村町長 今、子どもさんが多いんですけど、大人のひきこもりも多いんですかね。やっぱり、特におばあちゃんなんかから相談に来るわけですね、何とか孫を元気にして、一人前にしたいとか、なかなか解決策が、相談する場も、包括のほうで結構動いていただいておりますけど、実際非常に解決が難しい、特に大人の場合はなかなかタイミングが、そういう大人も含めて、先生、充実をよろしく。

○西村教育長 そうですね。

○西村町長 そういう意見で、いいですね。

山本委員どうぞ。

○山本委員 あと、先ほど西村教育長さんのほうから令和3年度の予算編成に向けて、町長ヒアリングで説明があったようなことをお願いするというようなお話を聞いて、とっても教育長さん自身の色を出されていこうとしとられるなということを感じて、とても心強い思いをしました。教育振興基本計画というのは、この新温泉町の教育の根幹ですから、今までどのようにされていたのかということは、よく僕は分からないんですけども、実際そういった指針をやるときに、評価と、それから、次のアクションというか、それをやるときに、他市町なんかでは、県立大学だとか、兵教大のそういった先生を教育アドバイザーとして入れて実効性を高めていくというような取組をもう既にされているところもありましたので、先ほどの予算化していく中で、教育アドバイザーを委託されるのか、そういったような取組をしていきたいというようなことで、非常に新温泉町の教育の質の向上にはとても役立つんだろうなというようなことを聞かせていただきながら思いましたし、適応教室のほうも、本当に教育長さんも就任されて、非常に急テンポで体制整備が進められているなということを感じます。先ほどは人的な、そういったものをずっと充実させる、心理士なんかも月1回ぐらい招聘して、そういった皆さんに相談の場を設けるというようなことで、今までになかったようなことをされようとされているので、とてもすばらしいなと思いますけれども、実際人的なものもそうなんですけども、そこで学校と同じことをしたら、それは僕は駄目だと思っているんです。今の環境的に見ると、いろんな子がいますので、この一人一人に対応できるような、物的なそういった、例えばコンピューターがそこに置かれているとか、GIGAスクールで端末を1人1台ある、手に入るということなので、またそういったものを使われていろいろと、ここに合った学習をされるんだろうと思いますけれども、人的な面と、それから、そういう物的な面の整備なんかも、

これからまた進んでいけばいいなということも思ってますし、GIGAスクールのごとで非常に授業改善が求められている中で、講師を招聘して2校ほどをその指定校に指定して研究させて、さらに新温泉町の教育の質を高めると、とっても夢のある構想だなとは思いますが、かえって2校指定されることによって、何かしら成果を出さなアカンとか、こういった発表しなアカンということで、そのためにかえって多忙化をさせないように、その辺は配慮が必要なんだろうなということは思いますが、そういった中心になって研究を進めていかれる学校を、やっぱり柱として立てていくということは非常にいい方法だなというふうには思います。

あと、スクールアシスタントのほうは、本当に新温泉町は町長さんの御理解があって、大変多くのそういう支援員だとか、人的な配置がなされているな、他市町だとこんなたくさん、本当にしていただいているところはないぐらいな、それぐらい手厚くしていただいていますので、先ほどありましたように、当然その費用対効果といえますか、その人たちがいることによって教育が、あるいは子どもたちがどんなふうに変容していくのかという、そこら辺をやっぴりきちっと検証していくということ、非常に大切だろうなと思いますので、ぜひ、先ほど教育長さんも言われたような熱い思いで、また予算をつけていただけて進めていってください。よろしくお願いします。

○西村町長 教育長のほうから答えられることがあれば。

○西村教育長 本当に今、山本委員のほうから言っていたんですけども、本当に新温泉町の教育の充実ということで、いろいろ本当に今まで進めてこられた教育の上にさらにということで、私自身考えているんですけども、本当に私たちも教育アドバイザーを入れていくことで気づかされることとか、外から見て新温泉町の教育がどうだというようなことで気づかされることもたくさんあると思いますし、そういう意味での充実を図っていきたくて思っています。

それから、適応指導教室の本当に教育委員の皆様にも場所を見ていただいたときに、場所が狭い、限られた場所でやっているの、そういった環境整備も必要だということもおっしゃっていただいていますので、そういったことでまだまだ課題はたくさんあるんですけども、今学校と同じことをやっていたら駄目、本当にもうそのとおりだと思うので、一人一人に合った、何かやっぱり環境整備もしていかなきゃいけないと思いますし、GIGAスクールが、1人1台が進むと学校とつながりやすくなると思うので、でも注意せんとアカンのは、山本委員がおっしゃったように、

つなぐことでまた遠くなったら駄目なので、学校と近づいていけるようなつながりを、1人1台の端末を使ったりとかいろいろしていきたいなと思います。

G I G Aスクールの2校の指定ということですが、学校間同士で、無理のないようにということはずごく言うております。I C Tを活用して何時に、一か所に集まるという研修ではなくて、学校が離れていてもその端末を使ってつながれるという、Z o o mを使ってつながれるといういい点がありますから、そういったことであまり、そういうことを最初から求めるのではなくって、教育委員会も一緒になってやっていきたいなと思っております。

○西村町長 ありがとうございます。

宮口教育長職務代理者のほう、予算について。

○宮口教育長職務代理者 今、教育長が要求をしている、100%になるのか、あるいはその中の何%になるのかはちょっと分かりませんが、やっぱり今出されている問題を少しでも一歩前進、二歩前進と、考えるなら、ぜひ要望をかなえていただきたいなと思います。

○西村町長 100%付けたいと思っています。

○宮口教育長職務代理者 そうなってくると、こちらのほうもある程度、さっき言った、あんまり結果を求められるとしんどい思いをするけども、でもやっぱり予算をもらうからにはそれなりの結果を出さんなと。やっぱりある程度学校だとそうなってくれば、結果としてはやっぱりある程度、成果を出さないと、あるいは問題点を把握して、それをみんなで考えていくという、そういうものがないと、ただ、ああ、1年間やったけども、こうだったな、ああだったなでは確かに具合が悪い。やっぱり予算をもらう限り、それなりに結果を求めなあかんし、そういうことは私はかなり厳しく見たいなと思いますね。

○西村町長 本当にね、そのとおりだと思います。教育長の答弁。

○西村教育長 本当に大事だと思っています。先ほどの話にもつながるんですけど、先生たちが単学級ということで、やっぱり同じ学年に2クラスあれば相談もできるんですけど、なかなかできにくいということもあって、このG I G Aスクールの、これが進むことで研究も、同じ学年の先生が、オンラインを通じて研修を深めていくというようなことをしたり、情報交換し合う、今ここをやっているんだけど、こういうことで困っていると、授業づくりで。そういったつながりも今後していきたい、来年度

にはそれをやっていこうということで、ちょっと今研修のほうで話を進めているんで、いろんな教育が広がっていくのかなと私も夢が広がっているなど今ちょっと思っているんですけど、そういった意味で、宮口委員がおっしゃったように、結果はやっぱり何らか出さないといけないと思っております。

○西村町長 ありがとうございます。

そのほかの予算について何かありますか。じゃあ、あと、予算の件につきましては以上で終わらせていただきまして、その他の項ということで、教育委員会のほうからその他の報告、もしあれば。大丈夫。

○吉田こども教育課課長補佐 事務局からは特にありません。

○西村町長 委員の先生方からその他の項につきまして御意見、何でも結構ですけど、気づいた点がありましたらお願いしたいと思います。

特にないようでしたら、ちょっと私のほうから、ここで議論は必要ないと思うんですけど、これまで教育委員会では幼・小・中の連携というので評価しとったんですけど、実は浜高の県の流れもありまして、これからは幼・小・中・高も含めた連携は必要ではないかな、そのように思っております。

それから、これは鹿とかイノシシがたくさん通学路の中で出てくると。自動車が鹿にぶつかる案件も多発しておりまして、昨日も交通安全会議があったんですけど、鹿と自動車の事故が非常に多くなりました。それに伴って、やはり子どもたちの通学、安全対策で、もう全部バスにしたらどうかとか、そういう一部意見も、集落からの要望があったり、そういう流れもあります。これ、安全対策の在り方として、今、学校から3キロ以内は歩いていくという、そういう流れがあるわけですけど、こういった考え方も変えていく必要があるかなということも思っています。ちなみに、鹿が、去年、4月から11月までで、一昨年は700頭ぐらいだったんですけど、今年は1,200頭、ほぼ1,300、倍近い鹿の頭数、ただイノシシはちょっと減っておりますけど、そういうふうな現状もありまして、通学の安全確保の面で、全員、特に低学年においてはバスなり、タクシーなり、そういう方向性を考える必要があるという具合に思っております。

それから、ふるさと学習の一環として自然学校が、各学校ほとんど村岡を使っておるんです。それから、スキー教室は小代がほとんど、一部照小はスキー教室は地元のスキー場を使うわけですけど、自然学校、スキー教室も含めて地元の施設、地元の人

との触れ合いの場、そういうことで、地元優先をお願いしたい、これは管理者、校長先生にお願いせんといけんことなんですけど、そういうことを言う必要があるという具合に思っています。

それから、あと東小、この令和3年度、先日校長先生のお話を聞いたら、入学は2人と言っていました。これ全体ですけど、そろそろ統合ですね、そういう話を持ち上げる時期が来ているなという具合に思っております。香美町みたいに、地域が統合を提案してくれればやりやすいんですけど、そういったことを地域の中で出していたら、統合もスムーズにいくような、それぐらいの生徒の人数になってきているということを報告事項として、教育委員の皆さんに一応お知らせをさせていただきたいと思えます。

それから、子ども議会、これは今年コロナで中止したんですけど、令和3年度も中止ということで行きたいと思えますので、よろしくをお願いします。

以上の点も踏まえた上で、もし御意見がいただけるようでしたら。

○宮口教育長職務代理者 すみません。さっき高校の関係で、例えば今県のほうは整理するという中で、やっぱり美方郡で一つにするとか、あるいはどこで一つにするかというような話になる方向ですか。

○西村町長 今中身は、ちょっと全く、3月でもって何か計画が発表されるということで、今のところはない。

○宮口教育長職務代理者 これだけ、浜高の受験生も減ってきているというので、私的には美方郡で一つになるのかな、村岡と合わせて一つになるのかな。学校に特色を持たせているという村岡が、スキーだったですね、スキー関係のことを普通科の中に入れて、今、あそこもそうやっても今定員の半分に満たないのと違うかな、今年入った子なんかでも。香住高校は水産科を中心にするならば、普通科が浜坂と香住との中でどういうふうな方向になるんだろう、これも今年でなしに、もう何年も前からそういう議論はありましたよね。だから今後やっぱり地元で高校がなくなるって寂しい感じにもなるし、でも現実によそに出ていってるということを考えたときに、ちょっと大変なことだなと思いつつ話を聞いていました。

○西村町長 今年バス通学の定期代を半額にしたんですけど、できたら全額持てということで、ちょっと財政のほうに、浜高通学、バス通学、今提案はしとるんですけど、実際に城北高校、鳥取方面に何人ぐらい行きそうですか、教育長。

○西村教育長 正式なのはまだないですけども。

今の話なんですけれども、町長がおっしゃるように、こども園からやっぱり高校までの連携というのはすごく大事だと思っています。今現在も浜高と中学校との、各中学校との連携校として連携はしているんですけども、やっぱり特色ある、魅力ある学校づくりということで取り組んでいかないと、なかなか厳しいところがありますし、地元からやっぱり高校がなくなると一気に寂しくなってくるということは、ほかの自治体でもすごく言われていることですので、何としてもなくさない方向で、やっぱり高校との連携というのは非常に大事になってくると思っています。地道なことですけども、授業、今年はちょっとコロナで行けてないんですけど、昨年度、小学校との授業交流だとか、浜高の生徒が行って授業の交流をしたりとか、先生たちも研修に参加し合ったりとか、そんなことはしてきているんですけど、今年度さらに進めたいと思っていたら、コロナのことがあってできていないところもあるんですけど、研修会に教師が参加するとかということではできていますし、浜高の先生が町の人権の授業公開にはたくさん来てくださってましたので、そういったことでの教師同士のまず連携をして、また本当に連携強化ということは大事だなと思っています。

○阪本委員 進路を決めるのに、やっぱり得意、不得意あって、高専に行きたい子もやっぱりあったり、割と理系の子がいるんだなというのを思ったら、浜高にもいろんな選択肢があったらいいのになと思うんですけどね。

○西村教育長 子どもが進路選択するときに、やっぱりいろんな学校の特色だとか、特徴だとかそういったことも考えたりとか、将来の自分の可能性を広げるために選んでいたりとか、いろんな方法を取って進路選択していると思うんですけど、町長がおっしゃったように、バスの、今年半額にしている面と、一方では、浜高じゃない学校に行ってる方からの意見もあったりというようなこともありますし、そういった不公平感というか、そういったところもやっぱりあったりするというのは現実にあるので、浜坂高校を魅力ある、本当に浜坂高校の支援協議会の中でも、台湾と交流しているんだけど、そういったところに修学旅行に行って、特色ある学校の一つに上げたらどうだとかというような意見も出たっていうふうにもおられますし、本当に魅力ある学校づくりということが求められているのかなと。

○西村町長 喫緊の課題になると思います。浜高については、早急に。加西市の市長さん、同じ名字の西村市長から、県知事宛てに、連携して、地域の非常に生徒数が減

少しとる高校を切らんようにという、そういう要望書を出したということを知っています。その中に新温泉町も入ってほしいということで、先月電話をいただきまして、そういう要望、連携してやろうということにさせていただいております。

○山本委員 本当にできることはそうやって手を打たれて、いろんな存続に向けて動いておられるので、本当にあとやっぱり、先ほどから出ていますように、高等学校自体がやっぱり魅力ある高校を目指して自助努力をするというか、それを一つやっていただくことと、それから、やっぱり高校生が目に見える形で、何というか、幼稚園だとか、小学校だとか、中学校の何かの教育活動に関わらせてもらって、そしてそういったことを新聞なり、ニュースソースとして発信していく、やっぱり高校というのは地域にとって非常に、幼小の連携にとっても重要な役割を担ってくれているし、必要なんだということを広く啓発するといいますか、実際、香住高校なんかは、矢田川にアユの放流だとか何とかで、高校生がどんどん、水産科の生徒だと思いますけれども、保育所に行ったり、小学校と一緒にやってやることをメディアが取り上げて出していますので、そういった何か、町内の中で高校生がこうやって活躍しているんだというような姿をやっぱり、できることであればどんどんしていただいて、教育課程があるでしょうから、無条件にはできないと思いますけれども、そういったことをやっぱりやっていかれたらなどは思います。

○西村町長 ぜひ高校との連携を深めていくように頑張りましょう。

○西村教育長 はい。

○西村町長 樹岡参事のほうから、何かそういう県の教育委員会の動きというのはつかんでないですか。

○樹岡こども教育課参事 分かる範囲では、やはり但馬の県立高校の校長、危機意識を持ちまして、会合の中では魅力ある高校づくりの中で、選ばれる高校づくり、これに全力を注ぐということでは共通理解で動いています。チラシを作って、生徒を募集したりとか、あと、やはりこの問題は、地域の実情を踏まえて丁寧にやっていく必要がありますので、恐らく町長が話されたとおりの、まずはこの地域の現状を知ること、意見聴取を考えているということでもあります。

○西村町長 ありがとうございます。

開会からほぼ2時間が経過しましたが、そのほか御意見がありましたらお願いしたいと思うんですけど、どうですか。

○阪本委員 あとバス通学のことなんですけど、やっぱり年々子どもが減って行って、歌長地区のほうから自転車で夢中に通うようになってはいるんですけど、帰りは、ずっと押して上がらなきゃいけないような状況なので、それを考えて、徒歩通になっている生徒が今ちょっと多いんですね。誘い合っていけるような感じでもなくって、みんなばらばらで行くようなことですし、子どもの数も少ないし、部活も違ったら帰りはばらばらですし、そんなんで結局、雨や雪や降ったら親が送っていくような形になっていると思うんで、何かバスは春來方面から出るんだったら、冬季だけでも、せめて乗れるようにできないのかな、おうちのほうからそういう要望があれば考えてもらったらいいのかなと思ったんですけど、私も見てたら、やっぱりちょっと1人で歩くのには怖いというか、そういう暗い、暗くて怖いという場所があまりにも長くて、自転車でずっと押していくというようなことにはちょっと無理があるなというふうに思ったんで、たくさん仲間がいて、みんなで夜帰っていけるんだったらまだいいんですけど、やっぱり少子化を考えたら、ちょっと心細いなと思いましたんで、そういうこともちょっと。

○西村町長 教育長、今の御意見、ちょっと一度現状を確認してみといてください。お願いします。

○西村教育長 要望が上がった時点でいろいろ、冬季はバス通学にするとか、小学生なんかも考えて、いろいろ教育委員会としても対応してきているんですけども、なかなかバスの確保が難しいというようなこともありますので、ちょっと確認を、はい、難しい面がたくさんあります。

○阪本委員 小学校が乗って通うようになったんですよね。

○西村教育長 はい、それもいろいろ要望があって、対応も考えてやっています。小学校の校長との確認で、一番に地域の見守りをお願いしてみる、協力依頼をしてみる、そして2つ目が、バス利用できる場合は有料でバスを利用していただくというような、校長との話合いの中である一定の線は決めているんですけど、そうはいつでもいろいろ要望もあったりしますし、やっぱり安全面ということで今後検討課題ではあると思っています。

それから、1点、町長、いいでしょうか。子ども議会のことなんですけれども、形を変えて、やっぱり町の施策とか、この町にやっぱり興味を持ってもらって、子どもたちの意見が言える場といいますか、そういったことも検討、今後考えてみたいと思

っています。この議会という形ではなく形を変えて、やっぱり子どもらがこのふるさとに、この町に魅力を感じて、将来この町をどうしていったらいいかとか、そういったことを考えていくようにはしていきたいとは思っていますので。

○西村町長 ありがとうございます。意見がたくさん出たんですけど、本日の会議はこの辺で終わらせていただきたいと思いますと思うんですけど、よろしいでしょうか。

宮口教育長職務代理者からも数字の裏にあるもの、確かにいじめとか減ってはいるんですけど、それで安心することがないように、常に検証を、事業の検証をしていたきながら、非常に教育長の色が出て、流れも本当によくなっているという、そういう面もありますので、そういういい流れを加速していただいて、今後の地域の教育行政、お願いしたいと思います。

以上をもちまして本日の教育総合会議を終了させていただきます。今日は本当にありがとうございました。

閉会 午後4時23分
